

4 教務関係

(1) 入学者、在籍者の状況

① 公益学部

(ア) 男女別在籍者数(平成24年5月1日現在)

性別	1年次	2年次	3年次	4年次	計
男	87	108	120	97	412
女	48	53	66	55	222
計	135	161	186	152	634

※休学者の数は在籍者の内数

(イ) 出身地別在籍者数(平成24年5月1日現在)

出身地		1年次	2年次	3年次	4年次	計
山形県内	村山	42	48	54	45	189
	最上	9	8	6	10	33
	置賜	10	26	21	20	77
	庄内	38	40	56	41	175
	小計	99	122	137	116	474
山形県外	青森県	4	3	2	2	11
	岩手県	12	12	12	12	48
	宮城県	4	7	9	7	27
	秋田県	13	13	18	6	50
	福島県	3	3	2	5	13
	栃木県	0	0	0	1	1
	東京都	0	0	1	1	2
	神奈川県	0	1	0	1	2
	山梨県	0	0	0	1	1
	新潟県	0	0	3	0	3
	岐阜県	0	0	1	0	1
	福岡県	0	0	1	0	1
	小計	36	39	49	36	160
	合計	135	161	186	152	634

(ウ) 退学・除籍・休学の状況(平成23年度)

学年	1年次		2年次		3年次		4年次		計	累計	
退学者	2		8		0		10		20	226	
除籍者	0		2		0		0		0	16	
休学者	前0	後0	前0	後3	前1	後1	前1	後3	前2	後7	—

②公益学研究科

(ア)男女別在籍者数（平成 24 年 5 月 1 日現在）

性別	修士 1 年	修士 2 年	博士後期 1 年	博士後期 2 年	博士後期 2 年	合計
男	5	8	2	1	0	16
女	0	3	0	0	1	4
計	5	11	2	1	1	20

(イ)出身地別在籍者数（平成 24 年 5 月 1 日現在）

出身地		修士 1 年	修士 2 年	博士後期 1 年	博士後期 2 年	博士後期 3 年
山形県内	村山	1	1			
	最上		1			
	置賜					
	庄内	4	8	1	1	1
	小計	5	11	1	1	1
山形県外	千葉					
	東京					
	神奈川			1		
	小計	0	0	1	0	0
合計		5	11	2	1	1

(ウ)退学・休学の状況（平成 23 年度）

学 年	修士課程	博士後期課程	計
退学者	2	0	2
除籍者	0	0	0
休学者	通年 1	通年 1	2

(2) 公益学部履修科目

2011年度時間割

平成23年5月26日

前期セメスター

Table with columns for 科目名 (Subject Name), 教員名 (Instructor), 教室 (Classroom), and 科目名 (Subject Name). Rows are categorized by time slots: 1時限 (9:00~10:30), 2時限 (10:40~12:10), 3時限 (13:00~14:30), 4時限 (14:40~16:10), 5時限 (16:20~17:50), and 6時限 (18:00~19:30). Each row contains detailed course information including codes, subject names, and instructor names.

○ 2011年度入学生は上段のみ対象。★印は教職課程。★印はリメディアル科目。アンダーラインがあるものは、再履修者が対象。 ○(xxxx)内の数字は、入学期度
注) 2011年度入学生の情報リテラシークラス：英語①～⑦⇒①～⑦クラス 中国語①～③ ⇒ ⑧～⑩クラス
注) 2010年度入学生の情報リテラシークラス(A～Dクラス)：英語②・⑥・中国語③⇒Aクラス 英語③・⑤⇒Bクラス 英語⑦・中国語①・②⇒Cクラス 英語①・④⇒Dクラス
注) 2009年度入学生の情報リテラシー(再履修)クラス(A～Dクラス)：英語②・⑥・ロシア語⇒Aクラス 英語③・⑤⇒Bクラス 韓国語・中国語①・②⇒Cクラス 英語①・④⇒Dクラス
注) 2006～8年度入学生の情報リテラシー(再履修)クラス(A～Dクラス)：英語②・韓国語①・ロシア語⇒Aクラス 英語③・⑤⇒Bクラス 韓国語②・中国語①・②⇒Cクラス 英語①・④⇒Dクラス

2011年度時間割

平成23年10月27日

〇後期セミナー

Table with columns for Day (月, 火, 水, 木, 金), Course Level (1時限, 2時限, 3時限, 4時限, 5時限, 6時限), and Course Details (Code, Course Name, Instructor, Classroom). Includes various subjects like English, Japanese, and specialized seminars.

〇 2011年度入学生は上段のみ対象。★印は教職課程。★印はリメディアル科目。アンダーラインがあるものは、再履修者が対象。
注) 2011年度入学生の情報リテラシークラス：英語①～⑦⇒①～⑦クラス 中国語①～③⇒⑧～⑩クラス
注) 2010年度入学生の基礎プログラミングクラス(A～Dクラス)：英語②・⑥・中国語③⇒Aクラス 英語③・⑤⇒Bクラス 英語⑦・中国語①・②⇒Cクラス 英語①・④⇒Dクラス
注) 2009年度入学生の基礎プログラミング(再履修)クラス(A～Dクラス)：英語②・⑥・中国語③⇒Aクラス 英語③・⑤⇒Bクラス 韓国語・中国語①・②⇒Cクラス 英語①・④⇒Dクラス
注) 2006～8年度入学生の基礎プログラミング(再履修)クラス(A～Dクラス)：英語②・韓国語①・ロシア語⇒Aクラス 英語③・⑤⇒Bクラス 韓国語②・中国語①・②⇒Cクラス 英語①・④⇒Dクラス

(3) 公益学研究科履修科目

2011年度 大学院時間割

時限	月				火				水				木				金				土								
	期前	科目名	教員名	教室	期前	科目名	教員名	教室	期前	科目名	教員名	教室	期前	科目名	教員名	教室	期前	科目名	教員名	教室	期前	科目名	教員名	教室					
1時限 9:00 ~ 10:30	前				前				前				前				前	公共政策論Ⅰ	黒田・一ノ瀬	21	後								
	後				後				後				後				後	公共政策論Ⅱ 政策研究特論a(地方財政論)	黒田・一ノ瀬 出井 信夫	21 22									
2時限 10:40 ~ 12:10	前				前	演習Ⅰ	武田 真理子 酒田		前				前	社会調査論	オムニバス 酒田 209	前	環境科学特論b(低炭素社会論) 演習Ⅱ	白 迎玖 平松 緑 酒田	23	前	環境マネジメント論 演習Ⅰ	古山 隆 黒田 昌裕	22 21	後					
	後	情報処理演習 演習Ⅱ	西村 まどか 平松 緑	酒田 酒田	後				後				後				後				後	公益社会デザイン※ 計量経済学Ⅱ※	オムニバス 砂田 洋志	ホール 11					
3時限 13:00 ~ 14:30	前				前				前				前	演習Ⅰ	澤邊 みさ子 酒田 203	前	公益学研究特殊講義f (地域活性化) 演習Ⅰ	オムニバス 出井 信夫	22	前	論文作成法※ 公共経営論 演習Ⅱ 研究指導Ⅲ	オムニバス 出井 信夫 黒田 昌裕 大蔵 恒彦	23 22 21 11	後					
	後	地域活性化特論c(景观文化論) Essay Writing	遠山 茂樹 ローウエン	21 酒田	後				後				後	演習Ⅱ	呉 尚浩 酒田	後	政策研究特論a(地方財政論)	出井 信夫	22	後	公益社会デザイン※ 計量経済学Ⅱ※ 特別セミナー(自治体経営実務)※	オムニバス 砂田 洋志 出井・水田	ホール 11 中教室						
4時限 14:40 ~ 16:10	前	会計学(※自由科目)	水田 健輔	酒田	前	演習Ⅰ 演習Ⅰ・演習Ⅱ	和田 明子 高谷 時彦	酒田 11	前				前				前				前	論文作成法※ 政策研究特論b(公民連携論) 研究指導Ⅲ	オムニバス 出井 信夫 黒田 昌裕	23 22 21	後				
	後				後	演習Ⅰ 演習Ⅰ・演習Ⅱ	和田 明子 高谷 時彦	酒田 11	後				後	演習Ⅰ	澤邊 みさ子	22	後	演習Ⅰ	出井 信夫	22	後	公益社会デザイン※ 計量経済学Ⅱ※ 特別セミナー(自治体経営実務)※	オムニバス 砂田 洋志 出井・水田	ホール 11 中教室					
5時限 16:20 ~ 17:50	前				前	演習Ⅰ	渋川 智明	21	前				前	経済学(※自由科目)	黒田 昌裕 酒田	前					前					後			
	後				後	障害者福祉論 演習Ⅰ	澤邊 みさ子 渋川 智明	22 21	後				後	演習Ⅰ	武田 真理子	22	後					後	特別セミナー(自治体経営実務)※ 演習Ⅰ 研究指導Ⅲ	出井・水田 黒田 昌裕 大蔵 恒彦	中教室 21 11				
6時限 18:00 ~ 19:30	前	統計学	山本 裕樹	23	前	公会計論 NPO・非営利組織論 事例研究法 研究指導Ⅰ	水田 健輔 渋川 智明 鎌田 剛 高谷 時彦	23 21 22 11	前	演習Ⅰ	伊藤 真知子 酒田		前	共創の技法 政策研究特論d (社会保障・公的年金政策)	温井 亨 阿部 公一 酒田 209	中教室 酒田	前	基幹統計調査論Ⅰ※ 加工統計基礎論※ 研究指導Ⅲ	桑原 廣美 高橋 睦春 出井 信夫	21 21 22	前				後				
	後	地域福祉特論a (地域福祉ネットワーク論)	照井 孫久	22	後	公益ビジネス特論a(社会起業家論) 地域活性化特論b(中山間・離島地域) 地域福祉特論c (福祉サービスマネジメント論) 環境科学特論a(食生活と健康) 演習Ⅰ	渋川 智明 オムニバス 鎌田 剛 平松 緑 温井 亨	21 23 22 22	後				後	政策法務論 福祉政策論 公益ビジネス特論b (企業統治分析)	内藤 禮 武田 真理子 尾身 祐介	23 22 12	後	ソーシャルキャピタル論 基幹統計調査論Ⅱ※ 公益学研究特殊講義g (地域福祉) 研究指導Ⅲ	オムニバス 桑原 廣美 オムニバス 出井 信夫	22 21 11 22	後	演習Ⅱ	黒田 昌裕	21					
7時限 19:40 ~ 21:10	前	地域デザイン論	高谷 時彦	22	前	地域活性化特論d(地域プロジェクト論) 地域福祉特論b(福祉サービス評価論)	オムニバス 照井 孫久	22 21	前				前	演習Ⅰ 演習Ⅱ	温井 亨 呉 尚浩 酒田	前	基幹統計調査論Ⅰ※ 加工統計基礎論※	桑原 廣美 高橋 睦春	21 21	前				後					
	後				後	公共性の社会学 公益組織体会計論 地域活性化特論a (都市中心市街地)	オムニバス 水田 健輔 オムニバス	22 23 21	後				後	演習Ⅰ	伊藤 真知子	22	後	政策研究特論c (New Public Management) 基幹統計調査論Ⅱ※	和田 明子 桑原 廣美	22 21	後	研究指導Ⅲ	黒田 昌裕	21					

※印：期日指定型講義

2011年度大学院時間割（期日指定型講義・集中講義）

1 前期開講科目

区分	科目名	教員名	開講日時
期日指定	論文作成法	遠山 茂樹 大歳 恒彦 和田 明子 松田 憲 松山 薫	4/23・5/7・5/21・6/4・6/18・7/2・7/23・8/6 各土曜3～4時限（8/6は3時限のみ）
期日指定	基幹統計調査論 I	桑原 廣美	4/22・5/20・6/3・6/17・7/1・7/29・8/5・8/26 各金曜6～7時限（8/26は6時限のみ）
期日指定	加工統計基礎論	高橋 睦春	5/6・5/13・5/27・6/10・6/24・7/8・7/22・8/12 各金曜6～7時限（8/12は6時限のみ）
夏季集中	企業と社会論	中谷 常二	8/18(木) 1～5時限 8/19(金) 1～5時限 8/20(土) 1～5時限
夏季集中	コミュニティ・ビジネス論 公開講座として実施	飯盛 義徳	8/23(火) 2～5時限 8/24(水) 2～5時限 8/25(木) 2～5時限 8/26(金) 1～3時限
夏季集中	計量経済学 I	黒田 昌裕	8/30(火)、8/31(水)、9/1(木)、9/3(土)、9/4(日) 各1時限～3時限

2 後期開講科目

区分	科目名	教員名	開講日時
期日指定	公益社会デザイン	オムニバス	10/ 8(土) 2～4時限 10/15(土) 2～4時限 11/12(土) 2～4時限 11/26(土) 2～4時限 12/17(土) 2～4時限
期日指定	計量経済学 II	砂田 洋志	10/ 1(土) 2～4時限 10/22(土) 2～4時限 11/19(土) 2～4時限 12/ 3(土) 2～4時限 12/10(土) 2～4時限
期日指定	基幹統計調査論 II	桑原 廣美	10/7・10/21・11/4・11/25・12/2・12/16・1/13・1/27 各金曜6～7時限（1/27は6時限のみ）
期日指定	特別セミナー（自治体経営実務）	出井 信夫 水田 健輔	10/22(土) 3～5時限 10/23(日) 3～5時限 10/29(土) 3～5時限 10/30(日) 3～5時限 11/13(日) 3～5時限

(4) インターンシップ実施状況

No.	種別	企業・団体名	実習学生数
1	官公庁	国土交通省東北地方整備局	2
2		山形県	1
3		山形市役所	2
4		酒田市役所	3
5		鶴岡市役所	1
6		新庄市役所	3
7		尾花沢市役所	1
8		南陽市役所	1
9		寒河江市役所	1
10		東根市役所	2
11		天童市役所	1
12		河北町役場	1
13		朝日町役場	1
14		米沢市役所	1
15		川西町役場	1
16		金ヶ崎町役場	1
17	民間会社	郵便事業株式会社 酒田支店	1
18		株式会社荘内銀行	2
19		株式会社きらやか銀行	1
20		鶴岡信用金庫	2
21		株式会社コミュニティ新聞社	2
22		株式会社山形テレビ	2
23		株式会社エフエム山形	1
24		酒田共同火力発電株式会社	2
25		株式会社山形グランドホテル	1
26		株式会社ヤマザワ	1
27		株式会社東洋開発	3
28		酒田まちづくり開発株式会社	1
29	その他法人団体	長井まちづくりNPOセンター	1
30		庄内観光コンベンション協会	1
31		社団法人酒田観光物産協会	2

○31団体 46名

2011年度前期オフィスアワー日程

H24.7.9

	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
	教員名	研究室	教員名	研究室	教員名	研究室	教員名	研究室	教員名	研究室
2時限 10:40~12:10							白 迎玖	C-5	和田 明子	B-2
3時限 13:00~14:30			大歳 恒彦 山本 裕樹 遠山 茂樹	A-3 I-5 E-5			白 迎玖 遠山 茂樹	C-5 E-5	和田 明子	B-2
4時限 14:40~16:10	尾身 祐介 温井 亨 呉 衛峰 半田 結	G-1 G-3 F-2 D-3	古山 隆 伊藤真知子 水田 健輔	E-1 F-3 C-4			出井 信夫 松田 憲 渡辺 暁雄 呉 尚浩	A-5 I-4 H-1 A-2	阿部 公一 広瀬 雄二	H-5 B-3
5時限 16:20~17:50	小関 久恵 松山 薫	H-3 C-3	内藤 悟 武田真理子 山越啓一郎 鎌田 剛 神田 直弥 照井 孫久 竹原 幸太 益子 行弘	C-2 E-2 D-4 E-4 F-4 F-1 H-4 H-2			小地沢将之 山本 裕樹 一ノ瀬大輔 澤邊みさ子 安部由美子	G-4 I-5 D-1 A-4 H-5	三原 容子 松山 薫	D-2 C-3
6時限 18:00~19:30			三島 憲之	I-3			國眼真理子 杉山 肇	G-5 D-5		

※ 学長、副学長、学部長は特に設定しておりませんが、秘書カウンター（内線：1050）に事前に予約をとってください。

2011年度後期オフィスアワー日程

H24. 7. 9

	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
	教員名	研究室	教員名	研究室	教員名	研究室	教員名	研究室	教員名	研究室
2時限 10:40~12:10			和田 明子 大歳 恒彦	B-2 A-3			白 迎玖	C-5	白 迎玖	C-5
3時限 13:00~14:30	和田 明子	B-2	山本 裕樹 大歳 恒彦 遠山 茂樹 古山 隆	I-5 A-3 E-5 E-1			洪川 智明 遠山 茂樹	A-5 E-5	古山 隆	E-1
4時限 14:40~16:10	西村まどか 呉 衛峰 尾身 祐介	B-4 F-2 G-1	竹原 幸太 山本 裕樹 小関 久恵 神田 直弥 安部由美子 松山 薫 三島 憲之 益子 行弘 水田 健輔 半田 結 温井 亨	H-4 I-5 H-3 F-4 A-1 C-3 I-3 H-2 C-4 D-3 G-3			阿部 公一 三原 容子 杉山 肇 出井 信夫 松田 憲 伊藤真知子 武田真理子 澤邊みさ子 一ノ瀬大輔 呉 尚浩	H-5 D-2 D-5 A-5 I-4 F-3 E-2 A-4 D-1 A-2	広瀬 雄二 渡辺 暁雄 鎌田 剛 内藤 悟	B-3 H-1 E-4 C-2
5時限 16:20~17:50			照井 孫久 小地沢将之 山越啓一郎	F-1 G-4 D-4						
6時限 18:00~19:30			國眼真理子	G-5						

※ 学長、副学長及び学部長の日程は、特に設定しませんので、相談したい学生は、秘書カウンターに日程、時間等確認してください。

平成23年度研究業績調書

職位 氏 名	教授 渋川智明				
1 専門分野、研究テーマ	非営利組織論 社会起業家論				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 (名称)					
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別) (名称)					
4 研究ノート (名称)					
5 資 (史) 料 (名称)					
6 翻訳 (名称)					
7 学会発表 (名称)					
8 その他 ① 専門誌 (名称) ② 研究調査報告書 「新しい地域像を求めて」	共著	2012年3月	公益ビジネス研究プロジェクト研究報告会、東北公益文科大学公益総合研究センター	7 ~ 8 p	2005~2010年度の文部科学省私立大学学術高度化推進事業のダブルA評価を受け、引き続き公益ビジネスプロジェクトを実施した。2011年11月19日に東北公益文科大学大学院ホールにおいて開催された研究報告会において、「元気高齢者の社会センター」と題して研究報告をした。東日本大震災における被災地と、海外イタリア・ドイツから考えた新しい地域像を事例も含めて研究の結果を報告した。
「平成23年度(復興支援)被災者に対するカウンセリング調査活動事業報告書」	共著	2012年3月	財団法人JKA震災復興補助事業、東北公益文科大学公益総合研究センター	1 p	JKAの補助事業により、社会福祉法人、NPO法人など介護保険事業者、職員と実行委員会を設置。照井孫久・本学教授、学部の渋川ゼミ所属学生らと共に岩手県内のグループホーム、小規模多機能施設などで震災時の対応、危機管理、その後の高齢者ケア、職員自らの体調管理、心の

③ その他 (名称)				ケアアンドについて、現地調査を行い、アンケート、インタビュー調査を実施した。その結果を収録、公刊したもの。渋川はプロジェクトの研究代表者として本プロジェクト、調査の意義、概要等について執筆した。
---------------	--	--	--	---

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴岡市高齢者保健福祉計画有識者懇話会委員、地域包括支援センター運営協議会委員 ・やまがた社会貢献基金運営委員会団体部会長 山形県新しい公共支援部会部会長 ・鶴岡市総合計画審議会委員 ・鶴岡市地域密着型サービス運営委員会座長 ・鶴岡市介護保険事業計画策定懇話会委員 	<p>H23年3月～H 年 月</p> <p>H24年4月～H 年 月</p> <p>H23年3月～H 年 月</p>	<p>委員</p> <p>委員長</p> <p>委員</p> <p>委員長</p> <p>委員</p>
② その他	<ul style="list-style-type: none"> 日本自治学会 日本公益学会 	<p>H24年4月～H 年 月</p> <p>H22年4月～H 年 月</p>	<p>理事</p> <p>理事</p>

平成23年度研究業績調書

職位 氏 名	三原 容子				
1 専門分野、研究テーマ	日本近代史 (思想、運動、教育)				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 (名称)					
3 学術論文 ※(査読付論文の区別) (名称)					
4 研究ノート 「庄内地域史の検証と再構築— —実証的研究への第一歩—」	単	2011年8月	『地方史研究』第 352号(第61巻第4 号)	36-39	地方史研究協議会の2011 年度(第62回)大会が「出 羽庄内の風土と歴史像— —その一体性と多様性— —」をテーマとして10月 に鶴岡で開催されるにあ たり、問題提起の依頼を受 けて執筆した。「支配層の 継続性という特徴」「継続 性がもたらす歴史研究の 制約」「立場性のからむ個 別事例」「近年における状 況の変化」「今後の研究」 と題して、庄内地域史研究 の方向性について簡潔に 述べた。
5 資(史)料 「(資料紹介)山形県立自治講習 所第一期生日誌(一九一六(大 正五)年)」	単	2011年7月	『東北公益文科大学 総合研究論集』第20 号	(43)-(65)	前年度まで科学研究費に よる研究報告書や総合研 究論集で発表してきた山 形県立自治講習所関係資料 を判読し紹介したもの。第 一回目は第一期生の日誌 である。
「(資料紹介)山形県立自治講習 所大正七(一九一八)年の第三 期生「自治寮日誌」と短期講習 生「日誌」	単	2012年1月	『東北公益文科大学 総合研究論集』第21 号	(7)-(55)	第二回目として(第二期生 の日誌は未発見であるた め)第三期生と短期講習生 の日誌を判読し紹介した。
6 翻訳 (名称)					
7 学会発表 (名称)					
8 その他 ① 専門誌 (名称) ② 研究調査報告書 「山形県庄内地方の農業倉 庫建設運動と加藤完治」	単	2011年3月 (昨年度の報	『農本思想の現代的 意義に関する研究	pp. 73-88	3年間の調査収集の結果、 長らく研究者の間で未見

③ その他 (名称)		告書で「予定」と書いた。刊行されたので念のため再掲する)	(課題番号 20580252) 平成 20～22 年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書』	であった資料を見つけ読むことができた。その結果を、自治講習所と皇国農民団、満州移民、鳥海農民道場、産業組合運動の4点にまとめた。紙数の関係で資料の紹介を主とした記述にした。
---------------	--	------------------------------	--	--

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・酒田市小・中学校学区改編審議会 ・山形県立酒田西高等学校学校評議員会 ・山形県立酒田西高等学校学校関係者評価委員 ・山形県立酒田聾学校学校評議員会 ・山形県屋外広告物審議会 ・酒田市図書館協議会委員 	<ul style="list-style-type: none"> H22年10月～H23年10月 H23年5月～H24年3月 H23年5月～H24年3月 H23年4月～H24年3月 H23年10月～H25年9月 H23年6月～H25年5月 	<ul style="list-style-type: none"> 委員 (再任) (酒田市教育委員就任のため、再任せず) 学校評議員 (再任) 学校関係者評価委員 (再任) 学校評議員 (再任) 委員 (再任) (酒田市教育委員就任のため、H24年3月までで辞任)
② その他 (特記) 森藤右衛門顕彰活動の開始と「公益大」のパブリシティ	<ul style="list-style-type: none"> ・ワッパ騒動顕彰会 ・森藤右衛門を顕彰する会 ・「やまがた夜話」(大学コンソーシアムやまがた) ・三太郎忌記念額集会 (松山町) その他、各地で森藤右衛門関係の講演 	<ul style="list-style-type: none"> H19年9月～現在 H23年7月～準備段階 H24年3月28日～ H23年7月20日 H23年10月15日 	<ul style="list-style-type: none"> 呼びかけ人 アドバイザー・講師 顧問 講師 講師 前年度は『大地動く』の刊行と「真壁仁・野の文化賞」受賞の関係で、しばしば新聞記事に掲載されたが、今年度は、ワッパ騒動の関連で、酒田での森藤右衛門顕彰活動が始まった。 2月4日付『山形新聞』、2月5日付『荘内日報』、2月10日『コミュニティしんぶん』、2月11日付『読売新聞』で報じられ、3月28日に設立総会は当日のYBC ニュース、翌日の『読売』『毎日』『山形新聞』『荘内日報』で取上げられた。森藤右衛門で多忙な数ヶ月だった。

平成23年度研究業績調書

職位 氏 名	教授 水田健輔				
1 専門分野、研究テーマ	公会計、高等教育財政、公的部門の経営				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 (名称)					
1 公会計小辞典	共著	2011年4月	ぎょうせい	21項目	執筆項目:「地方自治法」「地方交付税」「地方交付税法」「実質赤字比率」「連結実質赤字比率」「実質公債費比率」「将来負担比率」「資金不足比率」「地方債・縁故債」「独立行政法人」「独立行政法人の会計」「独立行政法人通則法」「市場化テスト」「指定管理者制度」「実施計画」「使用料」「資産・負債差額増減計算書」「電子政府」「概算要求・概算要求基準」「支出負担行為」「分任官」 《総頁数 382 頁》《共著者: 亀井孝文, 会田一雄, 山本清, 他 計 50 名》
2 2010年財政管理革新と経済の持続可能な発展国際会議	共著	2011年6月	北京交通大学出版社	pp. 295-304	執筆箇所:「日本における地方財政のマクロ管理とミクロ管理」 概要:日本の地方財政計画によるマクロ統制の概要と長所・短所を示し、その短所を補うためにストック会計情報を有効に利用するための留意点を示した。 《総頁数 710 頁》《共著者: 匡小平, 藤岡純一, 他 計 100 名以上》
3 いまからのキャンパスづくり—大学の将来戦略のためのキャンパス計画とマネジメント	共著	2011年11月	日本建築学会	pp. 108-111	執筆箇所:「第4章(3) 財源マネジメント」 概要 日本の国公立大学の施設整備財源について、その主要財源が不安定でキャンパス計画を裏打ちするのが難しい点を指摘し、新たな財源や整備手法の候補を紹介した。 《総頁数 191 頁》《共著者: 小林英嗣, 他 計 31 名》
3 学術論文 ※(査読付論文の区別) (名称)					
1 ニュージーランドにおける大	単著	2011年2月	『ニュージーラン	pp. 1-29	概要 ニュージーランドに

<p>学等への政府助成制度－需要重視政策から需要管理・成果主義政策への転換－（査読無）</p> <p>2 ニュージーランド政府の財政規律と管理－平時の財政・有事の財政－（査読無）</p>	<p>単著</p>	<p>2011年3月</p>	<p>『ド・ノート』第13号(東北公益文科大学・公益総合研究センター・ニュージーランド研究所)</p> <p>『ニュージーランド・ノート』第14号(東北公益文科大学・公益総合研究センター・ニュージーランド研究所)</p>	<p>pp.2-29</p>	<p>における高等教育機関への予算配分制度の改革を検証し、その改革課程の議論を日本に適用する方策について考察した。具体的には、ニュージーランドの過去の予算制度が単純なアウトプット（学生数）をもとにしてきたため、留学生の無理な受け入れにより教育の質の低下を招いた点を紹介し、基盤的な教育財源と研究財源に業績主義を導入した意義を検証した。</p> <p>概要 東北公益文科大学・公益総合研究センター・ニュージーランド研究プロジェクト第32回研究会（2011年11月5日）で発表した内容を論文としてまとめたもの。ニュージーランドの中央政府および地方政府の財政規律を紹介し、その特徴を検証するとともに、2012年2月に起きたカンタベリー大地震後のクライストチャーチ市復興施策にかかる財源措置の詳細を分析・検討し、日本に対する示唆をまとめた。</p>
<p>4 研究ノート (名称) なし</p>					
<p>5 資(史)料 (名称) なし</p>					
<p>6 翻訳 (名称) なし</p>					
<p>7 学会発表 (名称) 1 国立大学法人における施設等の老朽化と機能低下の分析方法に関する試案</p>	<p>共同(水田健輔, 稲葉忠彦)</p>	<p>2011年5月29日</p>	<p>日本高等教育学会第14回大会(会場:名城大学)</p>		<p>概要 国立大学の施設等の老朽化を把握するために面積当たりの固定資産単価を使用する妥当性を検証した。また、固定資産単価と施設等に対する学生の満足度に有意な相関があることを示し、単価を用いた施設状況の管理が重要性を持つことを示した。</p>

<p>2 国立大学法人における会計情報と業績・経営行動に関する実証分析</p>	<p>共同(水田健輔,古市雄一朗)</p>	<p>2011年9月18日</p>	<p>日本会計研究学会第70回大会(会場:久留米大学)</p>		<p>概要 国立大学が法人化後に採用した発生主義ベースの財務会計情報と従前から継承している現金主義ベースの予算・決算情報について、業績評価の観点から双方の有用性を検証した。</p>
<p>3 高等教育財政支出の決定要因-政治的要因の直接性と間接性-</p>	<p>単独</p>	<p>2011年10月9日</p>	<p>日本教育行政学会第46回大会(会場:九州大学)</p>		<p>概要 課題研究I「高等教育の評価・質保証・財政-教育と政治の観点から-」において、学会からの依頼・招聘にもとづき発表した。具体的には、日本、英国、米国における、過去の高等教育財政支出について、その増減の要因を政治的直接要因、政治的間接要因、行政的継続要因に分けて実証分析を行った。</p>
<p>8 その他 ① 専門誌 (名称) 1 国立大学法人化の常識-データからみたホンネとホント-</p> <p>2 競争的資金による大学改革の光と影</p> <p>② 研究調査報告書 (名称) 1 『国立大学法人における基盤的教育研究経費に関する研究』</p> <p>③ その他 (名称) 1 2011年度国際公会計学会賞(論文部門)受賞</p>	<p>単著</p> <p>単著</p> <p>共著</p>	<p>2011年4月~7月</p> <p>2011年6月~7月</p> <p>2011年6月</p> <p>2011年9月</p>	<p>『文部科学教育通信』ジヤース教育新社, 4月25日号(266)~7月25日号(272)</p> <p>『週間教育資料』日本教育新聞社, 6月27日号(1167)、7月11日号(1169)、7月25日号(1171)</p> <p>平成19~22年度・日本学術振興会・科学研究費補助金(基盤研究(B))最終報告書・課題番号19330191</p> <p>国際公会計学会</p>	<p>各回2頁</p> <p>各回2頁</p> <p>pp.29-46, pp.57-65, pp.67-115, pp.117-138 pp.139-170</p>	<p>概要 国立大学の法人化後の変化を各種データから検証する連載記事。2010年6月から全27回連載(2011年度は、うち7回を執筆)。</p> <p>概要 競争的配分による研究資金の集中化が国の研究基盤にもたらす悪影響の可能性を国内のデータおよび海外の文献から示した。</p> <p>概要 研究代表者を務めた科研プロジェクトの最終報告書であり、全9章中、第2・4・5・6・7・8章の6章の執筆を担当(うち第2・6章は共著)。《総頁数190頁》</p> <p>受賞対象論文 「海外の地方政府における「財政危機」概念とモニタリング方法-その類型化と日本への示唆-」『公会計研究』, 第12巻第1号通巻23号, pp.34-54.</p>

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会 なし			
② その他	<p>1 大学共同利用機関法人人間文化研究機構評価委員会</p> <p>2 国立大学財務・経営センター</p> <p>3 社団法人日本私立大学連盟インテリジェンスセンター「広報・情報部門会議(調査)」</p> <p>4 経済産業研究所「財政的な統一視点からみた教育財政ガバナンス・システムの構築」プロジェクト</p> <p>5 公立大学協会「公立大学法人財務会計に関する作業部会」</p>	<p>H19年10月～継続中</p> <p>H23年4月～H24年3月</p> <p>H23年6月～継続中</p> <p>H23年9月～継続中</p> <p>H23年11月～継続中</p>	<p>委員</p> <p>客員教授</p> <p>委員</p> <p>研究メンバー</p> <p>専門委員</p>

平成23年度研究業績調書

職位 氏名	准教授 温井 亨				
1 専門分野、研究テーマ					
	単・共著の別	発行又は発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文					
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他					
① 専門誌					
② 研究調査報告書					
● 陸前高田市における歴史・文化遺産を活かした復興まちづくり検討委員会報告書	共著	2012年3月?	陸前高田市における歴史・文化遺産を活かした復興まちづくり検討委員会?	3	文化庁所管事業の報告書
③ その他					
● 庄内町地域活性化アドバイザー事業報告書	単著	2012年3月		14	庄内町地域活性化アドバイザーとしての活動報告
● 上山市まちづくりアドバイザー事業報告書	単著	2012年3月		?	上山市まちづくりアドバイザーとしての活動報告

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	<ul style="list-style-type: none"> ●山形県まちづくり連携会議 ●馬見ヶ崎川宝の川づくり計画策定検討会(村山総合支庁) ●東根市旧横尾邸【東の杜資料館】利活用基本計画策定委託事業事業者選定委員会 ●上山小学校改築基本計画指名型プロポーザル設計者選定委員会 ●上山市協働のまちづくり活動支援事業(やる気満まんプラン) ●上山市長門ギャラリー運営委員会 ●庄内町中心市街地まちづくり協議会 ●庄内町振興審議会 ●村山市五十沢かやぶきの里景観会議 	H22年6月～ H23年9月～ H23年8月～H23年11月 H23年9月 H23年5月～H24年3月 H23年9月～H24年3月 H22年8月～ H24年2月～H26年1月 H9年～H23年4月	メンバー 座長 副委員長 委員 審査委員長 委員長 庄内町地域活性化アドバイザー 会長 幹事
② その他	<ul style="list-style-type: none"> ●庄内町地域活性化アドバイザー ●上山市まちづくりアドバイザー ●山形県立庄内総合高等学校学校評議員 ●山形県立庄内総合高等学校学校関係者評価委員 ●農水省東北農政局豊かなむらづくり審査会 ●国交省東北地方整備局酒田河川国道事務所日本海沿岸東北自動車道(酒田みなと～遊佐)事業 ●日本造園学会東北支部 	H23年5月～H24年3月 H23年4月～H24年3月 H23年5月～H24年5月 H23年5月～H24年5月 H21年5月～H24年3月 H23年11月～ H18年10月～H23年10月	アドバイザー アドバイザー 評議員 学校関係者評価委員 委員 事業景観アドバイザー 副支部長

	<ul style="list-style-type: none"> ●日本造園学会ランドスケープ遺産イベントリー作成委員会 ●日本造園学会ランドスケープ研究校閲委員 ●日本造園学会東日本大震災復興支援調査委員会 ●荘内銀行庄内価値開発研究会 ●村山市五十沢地区むらづくり ●庄内町観光協会ボランティアガイド育成講座 ●月山恵みの里庄内交流推進協議会 ●庄内町なしたって水曜会 	<p>H23年10月～ H23年11月～H25年3月</p> <p>H23年10月～H24年3月</p> <p>H23年11月～H24年5月</p> <p>H23年9月～H24年9月 H23年12月～</p> <p>H23年10月～H24年3月</p> <p>H23年9月～ H23年11月～</p>	<p>支部長 委員</p> <p>校閲委員</p> <p>幹事</p> <p>メンバー 雪下ろし等 アドバイザー</p> <p>アドバイザー 主催者</p>
--	--	--	--

東北公益文科大学

平成23年度研究業績調書

職位 氏 名	准教授 澤邊みさ子				
1 専門分野、研究テーマ	社会福祉、障害者福祉、障害者雇用				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 (名称)					
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別) (名称)					
4 研究ノート (名称)					
5 資 (史) 料 (名称)					
6 翻訳 (名称)					
7 学会発表 (名称)					
8 その他 ① 専門誌 (名称) ② 研究調査報告書 ・平成23年度酒田市大学まちづくり政策形成事業「酒田市におけるひとり暮らしの高齢者の見守り活動」の担い手に関する調査研究 報告書 / ・平成23年度酒田市大学まちづくり政策形成事業「とびしま未来プロジェクト事業」 報告書	共 共	2012年2月 2012年3月		p. 19-28 第三部 pp. 19-22 pp. 25-30	本調査は、酒田市におけるひとり暮らし高齢者の見守り活動の担い手とその活動内容の実態を把握し、各担い手や地域が抱える課題、各地域における「見守り活動」の範囲や内容について明らかにすることを目指したものである。調査対象地区は、高齢化率の高い琢成学区（中心市街地）と日向地区（中山間地区）である。 《総頁数 72 頁》《共同研究者：武田真理子、照井孫久、小関久恵》 《執筆担当箇所》琢成学区ヒヤリング調査まとめ 本調査は、山形県離島振興計画（2003年～）、2007年山形県離島振興推進調査における提言の検証、時期離島振興計画に向けた予備調査を目的としている。特に、福祉・医療の充実（ケアシステムの再構築）と合意形成の場づくりに焦点をあてて調査研究を行った。

③ その他 (名称)				《総頁数 219 頁》《呉尚浩、小関久恵》 《執筆担当箇所》インタビュー調査まとめ(介護サービス事業所「和楽」職員、酒田市社会福祉協議会職員・地域包括支援センターにいた職員)、各サービス主体の役割と課題
---------------	--	--	--	--

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	山形県介護保険審査会 山形県行政支出点検・行政改革委員会 酒田市障害者施策推進協議会 鶴岡市障害者施策推進協議会 庄内地域福祉有償運送運営協議会	H22年4月～H25年3月 H22年6月～H22年3月 H22年7月～H24年6月 H22年11月～H24年3月 H23年4月～H24年3月	委員 委員 委員 委員 構成員
② その他	酒田市立看護学校 日本ニュージーランド学会 サポートセンターあおぞら苦情解決委員会 庄内障害者就業・生活支援センター苦情解決委員会 社会福祉法人光風会苦情解決第三者委員会 吹浦荘苦情解決委員会 特定非営利活動法人あらた 社会福祉法人酒田市社会福祉協議会苦情解決第三者委員 酒田市立浜田小学校評議員 (財)青少年国際交流推進センター 青少年社会活動コアリーダー育成プログラム事前研修 山形県要約筆記奉仕員養成講座 ヘルパーステーション「わかば」基金訓練事業 2010「地域生活支援セミナーIN庄内」	H23年4月～H24年3月 H23年6月～H24年6月 H23年4月～H24年3月 H23年4月～H24年3月 H23年4月～H24年3月 H23年4月～H24年3月 H23年4月～H24年3月 H23年5月～H25年5月 H23年6月～H25年6月 H23年5月～H24年3月 H22年6月25日 H23年8月7日 8月21日 H23年9月1日 H23年11月22日	非常勤講師 監事 委員 委員 委員 委員 監事 委員 評議員 講師 講師 講師 講師

	<p>WAC ホームヘルパー養成研修 2 級課程 日本財団助成事業 大学などの地域資源を活かした社会貢献支援「大学生による公益活動実践授業と授業手法の開発、公益コミュニティサポーターの養成」</p>	<p>H22 年 5 月～9 月 H22 年 6 月 5 日 H22 年 12 月 19 日 H22 年～H25 年 3 月</p>	<p>運営スタッフ 講師 スタッフ</p>
--	--	---	---

平成23年度研究業績調書

職位 氏 名	准教授 阿部公一				
1 専門分野、研究テーマ	社会保障論・公的年金政策史				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 (名称)					
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別) (名称)					
4 研究ノート (名称)					
5 資(史)料 (名称)					
6 翻訳 (名称)					
7 学会発表 (名称)					
8 その他 ① 専門誌 (名称) ② 研究調査報告書 (名称) ③ その他 「厚生年金における1960年代 後半から70年代の給付水準増 大の誘因関係—労使間における 対立調整の視点を加えて—」	単		平成23年度奨励研 究(東北公益文科大学)		高度経済成長期におけ る厚生年金の給付水準増 大には、日本経営者団体連 盟による方針転換がその 誘因関係にあることを仮 説とし、厚生年金基金の創 設に至るまでの過程を対 象に、厚生年金改正への労 使間の影響を考察した。

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	酒田市中心公民館運営 審議会	H13年6月～H25年5月	副委員長
② その他			

平成23年度研究業績調書

職位 氏 名	准教授 渡辺暁雄				
1 専門分野、研究テーマ	社会学				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 (名称)					
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別) (名称)					
4 研究ノート (名称)					
5 資 (史) 料 (名称)					
6 翻訳 (名称)					
7 学会発表 (名称)					
8 その他 ① 専門誌 (名称) ② 研究調査報告書 「食と地域の交流促進集落活性化 対策寄付金事業『地域調査』」 ③ その他 山形新聞連載「<ことば>の杜 へ」	単著 単著	2012. 01. 28 2011. 05. 07 2011. 07. 02 2011. 08. 27 2011. 10. 22 2011. 12. 17 2012. 02. 18	鶴岡市 山形新聞	18 頁 毎回 900 字前後	鶴岡市グリーン・ツーリズム 推進協議会委託事業 連載コラム 映画、漫画、歌謡曲などサ ブカルチャー作品の中で 用いられる様々な<こと ば>を社会的に読み解 く。

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	・酒田市食育推進委員会 ・酒田市社会教育委員	H18年12月～ H21年5月～	委員長 委員
② その他	・(財)黒川能保存伝承事業 振興会評議員選定委員 会	H21年7月～H22年7月	委員

平成23年度研究業績調書

職位 氏 名	准教授 呉衛峰				
1 専門分野、研究テーマ	日中比較文学				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 (名称)					
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別) (名称) 『源氏物語』の中国語訳——豊 子愷訳の成立を中心に (査読付)	単	2011年	日本比較文学会編 『越境する言の葉— —世界と出会う日本 文学』日本比較文学 会創立60周年記念 論文集、彩流社。	173-184 頁	最初の中国語の全訳であ る『源氏物語』豊子愷訳に ついて、その成立に係わる 幾つかの問題を実証的に 検証したものである。
4 研究ノート (名称) 豊子愷訳『源氏物語』の出版の 遅れについて (査読なし)	単	2012年	『東北公益文科大学 総合研究論集』21	1-5頁	『源氏物語』豊子愷訳の出 版の遅れは、文革による文 化出版事業の中断が最大 の原因であるが、豊訳に対 する出版社内部の意見対 立もあったことを明らか にした。
5 資(史)料 (名称)					
6 翻訳 (名称)					
7 学会発表 (名称)					
8 その他 ① 専門誌 (名称) ② 研究調査報告書 (名称) ③ その他 (名称)					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会			
② その他			

平成23年度研究業績調書

職位 氏 名	准教授 和田明子				
1 専門分野、研究テーマ	行政学				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 『公会計小辞典』	共	2011年	国際公会計学会監修 亀井孝文編集代表	約 30 項 目	ニュージーランドの公会 計に関する項目を執筆
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別)					
4 研究ノート 「東北公益文科大学における公 益研究の動向」	単	2011年	『東北公益文科大学 総合研究論集』第 20 号	pp. 57-80	本学における公益研究の 動向を、教員・院生・学生 の研究論文のタイトルや 日本公益学会入会状況な どから分析
「地震災害に対するニュージ ーランド政府及び地方自治体の対 応ー復興法・復興庁・復興計画 を中心にー」	単	2012年	『ニュージーラン ド・ノート』第 14 号	pp. 30-44	地震災害に対するニュー ージーランド政府・地方自治 体の対応を復興法・復興 庁・復興計画を中心に分析
5 資 (史) 料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他 ① 専門誌 「ニュージーランドの地方 NPM 改革」	単	2010年 (前年 度不掲載分)	『月刊地方自治職員 研修』2010年 10 月 号	pp. 32-34	ニュージーランドの地方 NPM 改革を概説
② 研究調査報告書					
③ その他 「選挙制度改革 第三者機関で 原案づくりを」	単	2012年	朝日新聞2012年2月 2日	15 面(私 の視点)	日本の選挙制度改革のあ り方について提言

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 国・県・市町村の委員会	内閣府官民競争入札等 監理委員会	H20年5月～現在	専門委員
	総務省東北管区行政評 価局政策評価懇談会	H17年6月～現在	委員
	総務省東北管区行政評 価局山形行政評価事務 所行政懇談会	H17年2月～現在	委員
	山形県政府調達苦情検 討委員会	H22年6月～	委員
	山形県明るい選挙推進 協議会	H20年5月～	委員
	酒田市行財政集中改革 プラン推進委員会	H14年7月～	委員
	酒田市教育委員会事務 の管理及び執行状況に 係る点検及び評価	H21年8月～現在	外部評価者
	酒田市情報公開・個人情 報保護審査会	H22年1月～現在	委員
	酒田市総合計画審議会	H23年12月～現在	文教部会長 行財政部会副部長
	山形市教育委員会事務 の点検及び評価にかか る外部評価	H21年10月～現在	外部評価員
	新庄市行政評価アドバ イザー	H22年9月～現在	アドバイザー
	庄内町行政改革推進委 員会	H17年12月～現在	委員
北上市政策評価委員会	H23年8月～現在	委員	
(財)土門拳記念館情報 公開審査会	H22年7月7日～現在	委員	
② その他 (非常勤講師)	山形大学人文学部非常 勤講師 ・ 公共政策特殊講義 ・ 行政学	H23年4月～H23年9月 H23年10月～H24年3月	

平成23年度研究業績調書

職位 氏 名	准教授 松田 憲				
1 専門分野、研究テーマ	応用言語学				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 (名称)					
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別) (名称) 『CALL 教材におけるスピード調節機能付チャンク提示法に関する実証研究』 (査読なし)	共著	2011年7月 20日	東北公益文科大学 総合研究論集20	1, 5-6, 9, 12	本論では、初級レベルの英語学習者を対象に、従来の紙ベースで文章を読んだ場合と比較し、コンピューター画面上でチャンクが順次現れ消える提示法で、学習者自身が最適な提示速度を選べる機能を追加して、短いチャンク単位で4ヶ月間訓練した場合の、読解スコア、読解速度、読解効率への影響を検討している。
4 研究ノート (名称)					
5 資 (史) 料 (名称)					
6 翻訳 (名称)					
7 学会発表 (名称) An Experimental Study on Chunk-reading Training Using CALL: Use of Different Speed Mode Displays	共同発表	2011年8月 7日	外国語教育メディア 学会第51回全国 研究大会		発表では、初級レベルの英語学習者を対象に、従来の紙ベースで文章を読んだ場合と比較し、コンピューター画面上でチャンクが順次現れ消える提示法で、学習者自身が最適な提示速度を選べる機能を追加して、短いチャンク単位で4ヶ月間訓練した場合の読解スコア、読解速度、読解効率の各変化について報告している。
8 その他 ① 専門誌 (名称) ② 研究調査報告書 (名称) ③ その他 (名称)					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	酒田市都市計画審議会	H21年12月～H23年12月	委員
	鶴岡南高等学校(通信制)学校評議員会	H23年5月～H24年3月	評議員
	鶴岡南高等学校(通信制)学校関係者評価委員会	H23年5月～H24年3月	委員
② その他 「世界青年の船」参加青年とのディスカッション交流会	内閣府	H24年1月21日	交流会に参加した本学生の英語プレゼンテーションへのアドバイスと当日のグループ討論への参加とアドバイス

東北公益文科大学

平成23年度研究業績調書

職位 氏 名	准教授 古山 隆				
1 専門分野、研究テーマ	リサイクル工学				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 (名称) リサイクル・廃棄物辞典 5篇 近未来技術の開発と可能性 循環型社会の将来展望 7「静電 選別による軽質 ASR からの銅の 回収」	単著	2012	産業調査会辞典出版 センター	600	軽質の廃自動車シュレッ ダーダスト (ASR) から銅 を高品位で回収するプロ セス (減容固化・粉碎・静 電選別) を紹介した。
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別) (名称) 超硬工具材料粉体からのタング ステンとコバルトの環境調和型 分離回収に関する研究 (査読有)	共著	2011	日本金属学会誌、第 75 巻、第 11 号	613- 619	超硬工具の製造工程で生 じる廃棄物を $CaWO_4$ とし て再資源化するプラント は稼働しているが、高温で の酸化焙焼やオートクレ ープによるアルカリ溶解 操作を必要とする。本研究 では、超硬工具廃棄物から W および Co を効率的に再 資源化する環境調和型プ ロセスを検討した。
4 研究ノート (名称) Relationship between the maximum size of the cyclone products and the vertical velocity distribution inside the classifying column of the tower mill	共著	2011	東北公益文科大学総 合研究論集、第 21 巻	85-94	乾式タワーミル KD-3 型機 の分級カラム内に水平版 を取り付け、カラム内の流 速分布とサイクロン補修 産物の最大粒子径との関 係を調べた。
5 資 (史) 料 (名称)					
6 翻訳 (名称)					
7 学会発表 (名称) 竜骨の科学的調査について	共著	2011	資源・素材学会平成 23 年度秋季大会	71-74	竜骨に該当する第四紀象 類化石と、比較資料として 第四紀の他動物化石、新第 三紀以前の動物化石等につ いて、その化学組成、構 成鉱物について調べた。
・多機能盛土構造による放射能 汚染土壌処理に関する基礎研究	共著	2012	資源・素材学会平成 24 年度春季大会	113-114	多機盛土工法をベースに 改良を加えることにより、

・石炭層中に含まれる松岩について	共著		資源・素材学会平成24年度春季大会	169-172	放射能汚染土壌の間隔・安全保管に対応できるという観点から、放射線遮蔽試験およびセシウム吸着試験を実施した。 炭鉱跡地、ボタ山、露頭において松岩を採取し、石炭中の特定部分が鉱物質の松岩になるかについての検討を行った。
8 その他 ① 専門誌 (名称) ② 研究調査報告書 (名称) ③ その他 (名称) 特許 酸化鉄類沈着防止剤及びそれを使用する閉塞防止方法	共著	2011	日本国特許庁 (JP)、特許公開 2011-245457		含鉄酸性水に触れる器材に酸化鉄類が沈着して、閉塞したりすることを有効に防止することができ、器材の耐用年数を大きく延長することができる酸化鉄類沈着防止剤を開発した。

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	・酒田市廃棄物減量等推進審議会	H23年4月～H24年3月	委員
	・鶴岡市廃棄物減量等推進審議会	H23年4月～H24年3月	委員
	・山形県環境影響審査会 ・山形県エネルギー政策に係る新たな戦略策定委員会	H23年7月～H24年3月 H23年9月～H24年3月	委員 委員
② その他	・環境資源工学会	H23年4月～H24年3月	常任理事 (事務担当)
	・資源・素材学会	H23年4月～H24年3月	編集員
	・自動車技術会リサイクル部会	H24年2月～H24年3月	幹事
	・環境資源工学会 第126回例会「エネルギー・環境技術の最前線」	H22年11月～H23年6月	実行委員長
・環境資源工学会 第127回例会「山形県庄内地域における資源循環と環境対策の現状と展望」	H23年6月～H23年11月	実行委員長	
・環境資源工学会 第126回例会「エネルギー・環境技術の最前線」	H23年2月～H23年9月	実行委員長	

平成23年度研究業績調書

職位 氏名	准教授 広瀬雄二				
1 専門分野、研究テーマ	情報処理				
	単・共著の別	発行又は発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当頁数	概要
2 著書 (名称) 改訂版やさしいEmacs-Lisp講座	単	2012	株式会社カットシステム	292	テキストエディタGNU Emacsを制御するプログラミング言語 Emacs-Lispの解説書

9 社会貢献	委員会等名称	年限	職務(委員/委員長等)
1 県・市町村の委員会	平成23年度 新庄市本合海地区情報通信基盤整備業務技術評価委員会 酒田市情報ネットワーク更新設計業務の事業者選定に係る「情報ネットワーク更新設計プロポーザル審査委員会」委員 酒田市情報ネットワーク更新設計業務に係る「情報ネットワーク更新設計アドバイザー」(仮称)	2011年9月 2012年1月～2月 2012年2月～	委員 審査員 アドバイザー

平成23年度研究業績調書

職位 氏 名	准教授 武田真理子				
1 専門分野、研究テーマ	社会政策、社会保障、福祉まちづくり				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 (名称)					
3 学術論文 (名称)					
4 研究ノート (名称)					
5 資(史)料 (名称)					
6 翻訳 「ニュージーランド・フェザーストン戦争捕虜収容所における日本人兵銃撃事件—なぜ事件は起き、隠蔽され続けたのか—」	単	2012年3月	『ニュージーランド・ノート』第14号(東北公益文科大学公益総合研究センター・ニュージーランド研究所)	pp.57-62	ニュージーランド研究所第30回研究会の報告者であるMike Nicolaidi氏の報告用原稿'Notes for Talk at Seminars in Japan - 23-30 May 2011'を翻訳したもの。
7 学会発表 (名称)					
8 その他 ① 専門誌 「福祉まちづくりとコミュニティの課題—山形県庄内地域のケース—」 ② 研究調査報告書 平成23年度酒田市大学まちづくり政策形成事業報告書 「酒田市におけるひとり暮らし高齢者の見守り活動の担い手に関する調査研究」 ③ その他 (名称)	単 共 (研究代 表者)	2012年3月 2012年2月	『社会関係資本研究センター年報』第3号、2011年度(専修大学社会知性開発研究センター・社会関係資本研究センター)	pp. 204-227 pp. 1-53、 61-72	ソーシャルキャピタル研究に取り組んでいる専修大学社会知性開発研究センターに招聘され、講師を務めた研究会における報告内容の記録。 平成23年度酒田市大学まちづくり政策形成事業として、酒田市における高齢者の見守り活動の担い手の実態の解明を目的とした調査研究の報告。

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	山形県社会福祉審議会 山形県立酒田商業高等学校 酒田市認可外保育施設審議会 酒田市子育て支援推進協議会 酒田市地域あんしん生活支援研究会 「子育てするなら山形県」推進協議会 鶴岡市地域コミュニティあり方検討委員会	H15年6月～H 年 月 H15年3月～H 年 月 H20年4月～H 年 月 H20年9月～H 年 月 H23年7月～H24年3月 H24年2月～H26年1月 H24年3月～H25年3月	委員 評議員・評価委員 会長 委員長 委員 委員 委員
② その他	日本ニュージーランド学会 公益教育研究会 社会福祉法人正覚会 社会福祉法人あすなろ福祉会 川南地域ネットワーク会議 「地域づくりにつながる生涯学習～庄内地域における福祉まちづくりの活動事例を中心に～」 「誰もが安心して暮らせる福祉まちづくり」 「被災地から学ぶ福祉まちづくり」 「自主防災と福祉について考える パートII」 「公益の心を育むために～家庭・学校・地域が連携できること～」 「子育て支援ネットワーク連絡協議会の可能性を考える」 「協働のまちづくりを目指して～災害時要援護者を中心に福祉まちづくりを考える～」 「協働のまちづくりを目指して～災害時要援護者を中心に福祉まちづくりを考える～」 「これからの酒田市の福祉まちづくりを考える」	H22年6月～H 年 月 H17年9月～H 年 月 H18年6月～H 年 月 H18年9月～H 年 月 H22年12月～H24年4月 H23年6月22日 H23年7月8日 H23年7月14日 H23年12月21日 H24年2月5日 H24年2月10日 H24年2月17日 H24年2月18日 H24年3月6日	理事 副会長 監事 評議員 委員 平成23年度鶴岡市生涯学習推進員・社会教育関係職員合同研修会講師 庄内地域高齢者見守り・支え合い推進会議研修会講師 (山形県庄内総合支庁) 平成23年度酒田市民市街地講座講師 平成23年度酒田市市街地コミュニティ振興会連絡協議会学習交流会講師 酒田市立浜中小学校家庭学級講演会講師 もがみ子育て支援ネットワーク連絡協議会研修会講師 (山形県最上総合支庁) 平成23年度櫛引地域住民自治組織活性化事業地域課題研修会講師 平成23年度櫛引地域リーダー育成セミナー講師 平成23年度酒田市民生委員・児童委員協議会連合会研修会講師

平成23年度研究業績調書

職位 氏 名	准教授 西村まどか				
1 専門分野、研究テーマ	素粒子物理学、超弦理論				
	単・共著の別	発行又は発表年	発行所、発表雑誌学会等の名称	担当頁数	概 要
2 著書 (名称)					
3 学術論文 (名称)					
4 研究ノート (名称)					
5 資(史)料 (名称)					
6 翻訳 (名称)					
7 学会発表 (名称)					
8 その他 ① 専門誌 ② 研究調査報告書 ③ その他 General Relativity (一般相対論講義ノート) 「科学に関心を持つ社会への変革」(わたしの公益ノート担当分)	単著 単著	2011年 2011年	Bielefeld University (ドイツ) 本学	100 2	Bielefeld University で開講した General Relativity の講義ノート。 http://www.physik.uni-bielefeld.de/~madoka/gr2011.pdf 震災後に始まった研究者たちによる社会的なアクションについて解説。

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	酒田市教育委員会中村ものづくり運営委員会	H23年4月～H24年3月	委員
② その他	循環型システムの創造研究委員会	H23年4月～H24年3月	委員
	こどもゆめ基金助成活動「かずのふしぎ、しぜんのふしぎ」開催	H23年10月～H23年11月	講師
	TKC 経営支援セミナー 2011	H23年11月	講師
	鶴岡東高等学校最先端科学技術講座	H23年11月	講師

平成23年度研究業績調書

職位 氏 名	准教授 鎌田剛				
1 専門分野、研究テーマ	ナレッジマネジメント、ソーシャルワーク、スーパービジョン				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 (名称)					
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別) (名称)					
4 研究ノート (名称)					
5 資 (史) 料 (名称)					
6 翻訳 (名称)					
7 学会発表 (名称)					
8 その他 ① 専門誌 (名称) ② 研究調査報告書 (名称) ③ その他 (名称)					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	鶴岡市主任介護支援専門 員会議	H22年4月～H24年3 月	アドバイザー
② その他	平成23年度鶴岡市「主任 介護支援専門員研修会 (1)」	H23年4月12日	
	平成23年度鶴岡市「主任 介護支援専門員研修会 (2)」	H23年6月15日	
	鶴岡市社会福祉協議会高 齢者総合福祉センターお おやま施設研修会(1)	H23年7月8日	
	介護労働安定センター 「介護職員基礎研修課程 500時間(庄内地域)研修」	H23年8月11日	
	鶴岡市社会福祉協議会高 齢者総合福祉センターお おやま施設研修会(2)	H23年9月9日	

鶴岡市介護支援専門員ケ アネット鶴岡「第4回研 修会」	H23年9月16日	
平成23年度鶴岡市「主任 介護支援専門員研修会 (3)」	H23年9月29日	
鶴岡市地域包括支援セン ター「社会福祉士資質向 上研修(1)」	H23年10月14日	
鶴岡市社会福祉協議会支 援センター研修会(1)	H23年10月14日	
平成23年度鶴岡市「主任 介護支援専門員研修会 (4)」	H23年11月18日	
鶴岡市社会福祉協議会支 援センター研修会(2)	H23年11月25日	
鶴岡市社会福祉協議会高 齢者総合福祉センターお おやま施設研修会(3)	H23年11月29日	
鶴岡市地域包括支援セン ター「社会福祉士資質向 上研修(2)」	H23年12月5日	
平成23年度鶴岡市「主任 介護支援専門員研修会 (5)」	H23年12月15日	
鶴岡市社会福祉協議会支 援センター研修会(3)	H23年12月22日	
平成23年度鶴岡市主任介 護支援専門員研修会（ス ーパービジョン2）	H24年2月9日	
社会福祉士資質向上研修	H24年2月13日	
平成23年度山形県医療ソ ーシャルワーカー協会専 門研修会	H24年2月25日	
平成24年度鶴岡市地域包 括支援センター従事予定 者研修会	H24年3月9日	
平成23年度鶴岡市主任介 護支援専門員研修会	H24年3月9日	

平成23年度研究業績調書

職位 氏名	准教授 神田直弥				
1 専門分野、研究テーマ	人間工学、交通心理学				
	単・共著の別	発行又は発表年	発行所、発表雑誌学会等の名称	担当頁数	概要
2 著書 (名称)					
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別) (名称)					
4 研究ノート (名称)					
5 資(史)料 (名称)					
6 翻訳 (名称)					
7 学会発表 (名称) レインコート着用が自転車運転時の後方確認に及ぼす影響	単	2011	日本交通心理学会第76回大会発表論文集	79-82	レインコート着用により非着用時と比較して左右、後方の安全確認頻度が減少すること、フードを頭部に密着させて着用すると左右の確認頻度はそれほど低下しないが、後方確認の減少は食い止められないことを確認した。
8 その他 ① 専門誌 (名称) ② 研究調査報告書 (名称) ③ その他 (名称) 道路交通における公益社会の実現を目指して	単	2011	労働の科学 Vol. 66, No. 7	60-61	本学や実施している研究の内容について紹介した。

9 社会貢献	委員会等名称	年限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所道路安全に関わる地域懇談会におけるアドバイザー委員 国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所日本海沿岸東北自動車道(酒田みなと～遊佐)事業景観アドバイザー	H22年11月～H 年 月 H23年11月～H 年 月	委員 委員
② その他			

平成23年度研究業績調書

職位 氏 名	准教授 尾身祐介				
1 専門分野、研究テーマ					
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 (名称)					
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別) (名称)					
4 研究ノート (名称)					
5 資 (史) 料 (名称)					
6 翻訳 (名称)					
7 学会発表 (名称)					
8 その他					
① 専門誌 (名称)					
② 研究調査報告書 (エネルギー産業における 企業法務)	単	2011年4月	日本エネルギー法研 究所	4章担当	
③ その他 (山形新聞提言 2/29日付)	単	2011年0月	山形新聞	提言部 分のみ	

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会		H 年 月~H 年 月 H 年 月~H 年 月 H 年 月~H 年 月	
② その他	財団法人山形県水産振 興協会公益法人移行認 定検討委員会	H23年4月~	委員
	財団法人山形県水産振 興協会評議員選定委員 会	H24年3月~	委員
	酒田エフエム放送株式 会社番組審議委員	H24年4月~	委員

平成23年度研究業績調書

職位 氏名	講師 内藤 悟				
1 専門分野、研究テーマ	自治体環境政策、自治体政策法務				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文					
4 研究ノート 「私のニュージーランド資源管理法への関心」ニュージーランド・ノート12号	単	2011年	東北公益文科大学公益研究総合センター	2	日本の分権改革を踏まえたNZ資源管理法への視点について
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他					
① 専門誌 ・「政策条例 NAVI 条例による施策の総合化」自治体法務 NAVI vol46	共	2012年	第一法規	4	過疎地・中山間地対策を規定した条例の制定状況と法的问题点の分析 田中孝男 九州大准教授の著作にかかる書評 災害法制の経過と東日本大震災以降の法制度、防災条例の在り方 水資源保全に係る法的问题点と県条例制定の在り方
・「書評 自治体職員研修の法構造」政策法務 Facillitator vol31	単	2012年	第一法規	1	
③ その他 ・創立10周年記念シンポジウム報告「災害と法について」	単	2011年			
・水資源に係る研究会(山形県環境生活部)報告「地下水に係わる自治体政策」	単	2011年			

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	山形県職業能力開発審議会 遊佐町鳥海山環境保全条例研究会	H22年8月～ H22年11月～	委員 アドバイザー
② その他			

平成23年度研究業績調書

職位 氏 名	講師 山本裕樹				
1 専門分野、研究テーマ	物理学、素粒子理論、インターネット望遠鏡				
	単・共著の別	発行又は発表年	発行所、発表雑誌学会等の名称	担当頁数	概 要
2 著書 「脱温暖化 地域からの挑戦 山形・庄内の試み」	共著	2012年4月	慶應義塾大学出版会	pp. 77-100	山形県産業連関表とエネルギー消費統計調査山形県個票を用いて、平成17年度の山形県四地域における産業別のCO ₂ 排出量とCO ₂ 排出原単位を推計した。
3 学術論文 「エネルギー消費統計と山形県産業連関表を利用した山形県のCO ₂ 排出量の推計」(査読無し)	単著	2011年9月	東北公益文科大学ディスカッションペーパー	pp. 45-76	山形県産業連関表とエネルギー消費統計調査山形県個票を用いて、平成17年度の山形県全体における産業別のCO ₂ 排出量とCO ₂ 排出原単位を推計した。
8 その他 ② 研究調査報告書 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター採択 研究開発プロジェクト「環境共生型地域経済連携の設計・計画手法の開発」研究報告書	共著	2012年4月	東北公益文科大学	pp. 114-117	平成20年度～平成23年度にわたる研究開発プロジェクト「環境共生型地域経済連携の設計・計画手法の開発」の研究成果の報告。上記著書の内容をまとめたもの。

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① その他 大学コンソーシアムやまがた 慶應義塾大学自然科学センター	企画会議	H23年4月～H24年3月 H23年4月～H24年3月	委員 共同研究員

東北公益文科大学

平成23年度研究業績調書

職位 氏 名	講師 三島憲之				
1 専門分野、研究テーマ	日本経済思想史				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 (名称)					
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別) (名称)					
4 研究ノート (名称)					
5 資 (史) 料 (名称)					
6 翻訳 (名称)					
7 学会発表 (名称)					
8 その他 ① 専門誌 (名称) ② 研究調査報告書 (名称) ③ その他 (名称)		2011年	瑕瑾会『瑕瑾会論集』 2～84頁。		小室正紀氏へのインタビューの聞き手。
	「日本経 済思想史 の過去・現 在・未来」				

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会			
② その他 慶應義塾福澤研究センター		H23年4月～H24年3 月	研究嘱託

平成23年度研究業績調書

職位 氏 名	講師 益子 行弘				
1 専門分野、研究テーマ	認知科学				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 (名称)					
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別) (名称) 1. 『教師の表情・印象とクラス雰囲気との関連性の検討』	共著	平成24年7月発行 予定	日本感性工学会誌 (印刷中)	10	<p>【査読あり】 担当：全ページ (齋藤は助言・指導) (共著者) 益子行弘・齋藤美穂</p> <p>本研究では、授業中の教師の表情および印象と、クラス雰囲気の関連性を検討した。共分散構造分析 (SEM) を用いて、教師の表情や印象がクラス雰囲気にどの程度影響を与えているか検討したところ、教師の表情はクラス雰囲気に比較的大きな影響を与えていたが、同時に、教師自身の印象にも影響を与えていることがわかった。教師の印象もクラス雰囲気に影響を与えていたが、表情ほど大きな影響を与えていないことが明らかとなった。</p>
4 研究ノート (名称)					
5 資 (史) 料 (名称)					
6 翻訳 (名称)					
7 学会発表 (名称) 1. 『相談援助場面における援助者が表出する表情の検討』	単著	平成23年10月	日本社会福祉学会第59回大会	2	<p>相談援助場面における相談者は、どのような表情を表出しているか調査することを目的とした。撮影した6名の援助者においては、すべての援助者で真顔の評定平均値が4 (どちらでもない) 以上であり、面談内で多くみられた表情であった。真顔以外の表情の表出については、評定平均値がほぼ3 (あまりあてはまらない) 以下であり、</p>

2. 『教師の表情・印象とクラス雰囲気との関連性の検討』	共著	平成23年9月	日本感性工学会第13回大会（査読セッション発表）	10	<p>表出が少なかったといえる。とくに嫌悪顔と恐れ顔は、面談内では表出が少ない表情であることがわかった。今回の調査においては、援助者は、真顔を中心に面談を行い、その他の表情は表出が少ないことが明らかとなった。</p> <p>本研究では、授業中の教師の表情および印象と、クラス雰囲気との関連性を検討した。共分散構造分析（SEM）を用いて、教師の表情や印象がクラス雰囲気にとどの程度影響を与えているか検討したところ、教師の表情はクラス雰囲気に比較的大きな影響を与えていたが、同時に、教師自身の印象にも影響を与えていることがわかった。教師の印象もクラス雰囲気に影響を与えていたが、表情ほど大きな影響を与えていないことが明らかとなった。</p> <p>（共著者）益子行弘・齋藤美穂</p>
8 その他 ① 専門誌 (名称) ② 研究調査報告書 (名称) ③ その他 (名称)					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務（委員／委員長等）
① 県・市町村の委員会 1. 山形県社会福祉士会 社会福祉実習委員会 2. 山形県庄内保健所 がん検診受診向上研究会	山形県社会福祉士会 社会福祉実習委員会 山形県庄内保健所 がん検診受診向上研究会	H22年4月～現在 H22年4月～現在	委員 委員
② その他 1.『山形県訪問介護員養成研修2級課程』 2.『山形県聴覚障害者協会 要約筆記奉仕員養成講座』 3.『山形県介護職員基礎研修』 4.『酒田市市民大学』	山形県 山形県聴覚障害者協会 山形県 酒田市	H23年8月～H23年9月 H23年8月～現在 H23年12月 H23年9月	講師 講師 講師 講師

平成23年度研究業績調書

職位 氏 名	講師 竹原幸太				
1 専門分野、研究テーマ	専門分野：児童福祉、司法福祉、教育学 研究テーマ：非行児童保護における「児童の権利」擁護に関する研究、被害者・加害者・コミュニティの対話による非行問題解決（修復的司法・実践）に関する研究、				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 (名称) 菊池俊諦の児童保護・児童福祉 思想に関する研究－戦前・戦 中・戦後の軌跡と現代児童福祉 法制への継承（博士論文）	単	2011年10月	早稲田大学大学院文 学研究科	144pp	初代武蔵野学院長菊池俊諦 の児童保護・児童福祉思想を 通じて、「児童の権利」や個 別に応じた特殊教育の制度的 起源について論じた。とり わけ、児童福祉法審議過程以 前に、一般児童と要保護児童 を統合した教育・福祉的対応 を目指した総合的児童保護 法案が現場にあったことを 歴史的に実証し、今日の児童 福祉や教育に継承すべきこ とを指摘した。
『精神保健の課題と支援』	共	2012年3月	弘文堂	pp. 89-98	精神保健福祉士養成新カリ キュラムに応じた教科書。現 代の家族形態、諸問題につい て解説。スクールソーシャル ワーク等の新たな実践を取 りあげ、ひきこもり、不登校 への教育と福祉をつないだ 援助の可能性について論じ た（第5章「精神保健の課 題から見た家族の課題」 を担当）
3 学術論文 ※（査読付論文の区 別） (名称) 菊池俊諦の戦後社会活動と児童 福祉思想の展開－菊池文庫調査 を中心として（査読有）	単	2011年5月	社会事業史学会『社 会事業史研究』39号	pp. 29-45	社会事業史分野でも未だ謎 が多い菊池俊諦の戦後の社 会活動と著書、遺稿等が所蔵 される「菊池文庫」の資料に 考察を加え、戦後の菊池の児 童福祉思想の形成過程とそ の特色を論じた。
4 研究ノート (名称)					
5 資（史）料 (名称)					
6 翻訳 (名称)					
7 学会発表 (名称)					

The Learning Community Approach in Japanese Schools: Building Collegial and Cooperative Relationships among Teachers	共	2011年6月	The 14th world conference of the International Institute for Restorative practices (於 Westin Nova scotian, Halifax)		Eriko Yamabe, Kota Take Hara による共同報告。教職員が互いの教育実践を省察していく過程は、学校コミュニティを創造していく重要なサイクルであり、修復的実践の展開においても学ぶべき点が多いことを報告した。
子どもの相互対話と学校参加を基盤とする道徳教育実践に関する研究—ジャスト・コミュニティと修復的実践の比較を中心として	単	2011年8月	日本教育学会第70回大会(於千葉大学)		コールバーグの「正義の学校共同体」と修復的実践の比較から、学校全体を通じた道徳教育実践について考察し、日本の学校教育への導入可能性について論じた。
ファミリーグループ・カンファレンスの研究動向と日本での実践課題：修復的司法から修復的実践へ	単	2011年10月	第31回日本ニュージーランド学会・ニュージーランド学会・東北公益文科大学公益総合研究センター合同研究会(於早稲田大学)		ニュージーランドの1989年子ども・若者・家族法において、非行や虐待の支援形態として、加害者、被害者、地域社会の3者の対話によるファミリーグループ・カンファレンスが法的に位置づけられ、世界各国で修復的司法との関連で言及されてきたことを紹介した。その上で、日本の児童相談所等で試験的な実践が開始され、日本型のファミリーグループ・カンファレンスの方途を論じた。
ファミリー・バイオレンス予防教育に関する研究—法教育を通じた修復的実践プログラムの展開可能性	共	2011年12月	第17回日本子ども虐待防止学会(於つくば国際会議場)		宿谷晃弘、竹原幸太、山辺恵理子、原口友輝による共同報告。諸外国の修復的実践に注目しつつ、法教育を活用した、家族間暴力予防教育のプログラムについて報告した。
8 その他 ① 専門誌 (名称) (読書案内) 修復的正義の今日・明日—後期モダニティにおける新しい人間観の可能性	単	2011年7月	東北公益文科大学総合研究論集、20号	pp. 81-87	細井洋子・西村春夫・高橋則夫編『修復的正義の今日・明日—後期モダニティにおける新しい人間観の可能性』(成文堂、2010)の内容を紹介した。
無縁社会がもたらす子ども不信を乗り越える—当事者参加による非行克服の新たな展開	単	2011年9月	『子ども白書2011』、草土文化	pp. 158-160	社会のつながりの希薄化は個人の自己責任追求意識を強化し、結果として少年事件

<p>ニュージーランドのファミリーグループ・カンファレンスと修復的实践研究</p> <p>② 研究調査報告書 (名称) 菊池俊諦の児童保護事業職員養成における「児童の権利」擁護認識に関する研究(科研費研究若手B)採択</p> <p>③ その他 (名称) 山形新聞コメント</p> <p>山形新聞コメント</p> <p>東日本大震災と子ども問題</p>	<p>単</p> <p>単</p>	<p>2012年3月</p> <p>2011年4月</p> <p>2011年7月</p> <p>2012年1月</p> <p>2011年6月</p>	<p>『ニュージーランドノート』、14号</p> <p>『山形新聞』(朝刊) 2011年7月8日</p> <p>『山形新聞』(朝刊) 2012年1月27日</p> <p>『Over View』25号</p>	<p>pp. 63-68</p> <p>19面</p> <p>31面</p> <p>p. 25</p>	<p>の背景の理解を後退させ、少年法「改正」による厳罰化を加速させること解説。その上で、非行に関わる当事者の活動の可能性を論じた。</p> <p>ニュージーランドのマオリ族の紛争解決方法であるファミリーグループ・カンファレンスの1989年法制化過程を踏まえ、対話による紛争解決である修復的实践の世界的展開について紹介した。</p> <p>研究代表として、科研費研究若手B「菊池俊諦の児童保護事業職員養成における「児童の権利」擁護認識に関する研究」が新規採択された。</p> <p>京都大ネットカンニング事件に関する山形家裁の少年審判結果についてコメントした。</p> <p>山形東高女性暴行未遂事件に関する山形家裁の少年審判結果についてコメントした。</p> <p>東日本大震災後に生じた子ども問題への中長期的な支援視座をコメントした。</p>
---	-------------------	--	---	---	--

9 社会貢献	委員会等名称	年限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	酒田市立保育研究委員会 酒田市小・中学校区改編審議会 庄内地区里親及び七窪思恩園合同懇談会	H23年4月～H24年3月 H23年12月～H24年12月 H24年2月23日	委員 委員 講師
② その他			

平成23年度研究業績調書

職位 氏 名	講師 小関久恵				
1 専門分野、研究テーマ	社会福祉学、社会福祉教育				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 (名称)					
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別) (名称)					
4 研究ノート (名称)					
5 資 (史) 料 (名称)					
6 翻訳 (名称)					
7 学会発表 (名称)					
8 その他 ① 専門誌 (名称) ② 研究調査報告書 「平成23年度酒田市大学まちづくり政策形成事業『酒田市におけるひとり暮らし高齢者の見守り活動の担い手に関する調査研究』報告書」 「2011年度社会福祉援助技術現場実習教育・指導の標準化に関する実態調査報告書」 「平成23年度酒田市大学まちづくり政策形成事業『とびしま未来プロジェクト事業』報告書」	共 共 共	平成24年2月 平成24年3月 平成24年3月	 日本社会福祉教育学校連盟東北ブロック・日本社会福祉士養成校協会東北ブロック	共 同 執 筆 第4章第2,4節 第3部	酒田市におけるひとり暮らし高齢者の見守り活動の担い手と活動内容の実態を把握(日向地区及び琢成学区の民生委員・児童委員、学区・地区社会福祉協議会、コミュニティ振興会・自治会、地域包括支援センターを対象としたヒヤリング調査やアンケート調査を実施)し、課題抽出及び提言をまとめている。 社会福祉士養成教育における実習教育・実習指導の標準化を目指すにあたり、北海道・東北ブロックの現状について各養成校及び実習生への調査を実施しその実態を把握・分析、標準化へ向けた課題を抽出している。 高齢化が顕著である酒田市飛島における高齢者福祉に寄与するため、現在のケアシステムの実態調査

③ その他 (名称)				を実施(介護サービス事業所、酒田市社会福祉協議会、地域包括支援センター、ヘルパー会へのヒヤリング調査)し、課題分析と今後のあり方についての提言をまとめている。
---------------	--	--	--	---

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会			
② その他 ・岩手県立水沢高等学校 SSH 特別講義「福祉って何だろう？」 ・平成 23 年度市民講座出前講座(日向コミュニティ振興会)「地域で暮らす幸福感～互いのことを知ろう」		H23 年 10 月 22 日 H24 年 2 月 25 日	講師 講師

東北公益文科大学

平成23年度研究業績調書

職位 氏 名	講師 一ノ瀬大輔				
1 専門分野、研究テーマ	環境経済学、法と経済学				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 (名称)					
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別) (名称) Reexamining the waste-income relationship (査読なし) Economic Geography and Productive Efficiency of Solid-Waste Logistics in Japan's Prefectures: Measurements via the Data Envelopment Analysis (査読なし) 地域間産業連関表を用いた地域別産業廃棄物排出量の推計－山形県 4 地域を例に－ (査読なし) 不適正処理行動の経済学的分析 (審査あり)	共 共 単 単	2011 2012 2012 2011	GRIPS Discussion Papers GRIPS Discussion Papers Discussion Paper, 東北公益文科大学 博士学位申請論文		地域的特性を考慮したうえで、豊かさと廃棄物排出量の研究 廃棄物収集の効率性の分析 地域間産業連関表を用いた地域別産業廃棄物発生量の推計 不適正処理問題を経済学的に分析
4 研究ノート (名称)					
5 資 (史) 料 (名称)					
6 翻訳 (名称)					
7 学会発表 (名称)					
8 その他 ① 専門誌 (名称) ② 研究調査報告書 (名称) 「飛島における新エネルギー利用のあり方調査研究委託業務報告書」 ③ その他 (名称)	共	2012	酒田市委託研究		飛島での新エネルギー利用の在り方について検討した。

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会			
② その他			

東北公益文科大学

平成23年度研究業績調書

職位 氏 名	学部長 平松 緑				
1 専門分野、研究テーマ					
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 (名称) <i>The Senescence-Accelerated Mouse (SAM): Achievements and Future Directions</i>	単著	2012 印刷中	Elsevier Takeda T et all eds	511-524	46章 The study of herbal medicine effects on senescence accelerated mice 老化促進モデルマウスと生薬につ いての総説
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別) (名称)					
4 研究ノート (名称)					
5 資 (史) 料 (名称)					
6 翻訳 (名称)					
7 学会発表 (名称)					
1 最上紅花の花びら抽出液による老化促進モデルマウスの記憶保持作用と延命効果について	共著	平成23年7月 3日	第64回日本酸化ス トレス学会学術集会	抄録集 P57	概要: 紅花の花びら抽出液 を認知症のモデルである、 老化促進モデルマウスに 投与した結果、寿命を長く し、記憶改善効果が認めら れた。平松緑、相蘇剛宏
2 Life-prolongment and improvement of the step-through avoidance test insence accelerated mouse(SAMP8 and SAMP10) by Mogami-benibana (safflower, <i>Carthamus tinctrius</i> Linne)	共著	平成23年9月 17日	7 th National Specific Practical Conference with International Participation, Reactive Oxygen Species, Nitric Oxide, Antioxidants and Human Health	抄録集 P287	ロシア、スモレンスクに おいて国際学会に招聘さ れ、紅花の抽出液は抗酸化 作用と脳保護作用がある が、さらに認知症のモデル である SAMP8 と SAMP10 マウスの記憶を改善し、延命 することなどを総説した。
8 その他					
① 専門誌 (名称) 私の公益ノート II	単著	平成24年3月	東北公益文科大学	P38-39	教員の執筆集
② 研究調査報告書 (名称) 紅花若菜の抗酸化性と成分の 検討	共著	平成24年3月	東北公益文科大学	5 ページ	受託研究「紅花若菜粉末等 のフリーラジカル消去作 用の分析、メタボローム解 析および評価に関わる研 究」(1,732,00円)

③ その他 (名称) Cradle, 10		2012年3月		P32-35	平松緑, 浅井重臣著 紅花のふる里
-----------------------------	--	---------	--	--------	----------------------

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会 酒田市 酒田市 山形県	健康さかた 21 行動計画策 定懇話会 酒田市総合計画審議会 庄内地域保健医療協議会	H23年12月～ H23年11月～ H23年11月～H25年10 月	委員 委員、副会長 委員
② その他 (1)講演 1 紅花と健康について 2 県花・紅花食菜の様々な効能につ いて 3 紅花の効能について 4 紅花の健康への効能について 5 紅花の効能について 6 最上紅花の健康への効能 (2)卒業式・閉校式 山形県立商業高等学校 山形県立酒田北高等学校 (3)学会役員 1 日本神経化学会評議員 2 日本てんかん学会評議員 3 日本グアニジノ化合物研究会評議 委員 4 日本脳化学会理事 5 老化促進モデルマウス研究協議会 委員 6 酸化ストレス学会評議員 7 生化学会会員	山形県立谷地高等学校谷地 学 酒田市介護予防講座 富士見学区社会福祉協議会 河北町教育委員会・かほく 町民大学ひなカレッジ実行 委員会 酒田市ボランティア連絡協 議会 消費生活団体連絡協議会	H23年7月15日 H23年7月26日 H23年7月26日 H23年9月10日 H23年11月17日 H24年1月20日 H24年3月1日 H24年3月4日	講師 講師 講師 講師 講師 講師 来賓 来賓

平成23年度研究業績調書

(職位)氏名	(教授) 國眼眞理子				
1 専門分野、研究テーマ	教育心理学・キャリア心理学、青年期におけるキャリア発達とその促進要因				
	単・共著の別	発行又は発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
7. 学会発表					
1. キャリア発達・教育に関する研究 (IX) 理系・文系の選択とキャリア発達	共著	平成23年7月 (2011)	日本教育心理学会 第53回総会発表論 文集	1頁	近年文部科学省による「女子中高生の理系進路選択支援事業」等が開始されているように、高校までの理系・文系選択には性差が見られる。本研究では小中高時代の教科学習状況や職業をめぐる家庭環境要因、将来の将来展望を検討した。その結果、小学校段階から文系理系で得意科目に差が見られるとともに、ロールモデルの効果が見られた。また描く将来のライフスタイルによって文理選択が分かれることが明らかになった。
2. キャリア発達・教育に関する研究 (X) 就職活動前後におけるキャリア選択要件の変化	共著	平成23年7月 (2011)	日本教育心理学会 第53回総会発表論 文集	1頁	大学生におけるキャリア選択要件の変化を、就職活動開始前と活動終了後と比較した。その結果、活動前では、ほとんどの学生が「勤務地」を重要な要件としたが、その他の選択要件には優先度に差はなく基本的な労働条件がほとんどを占めた。いずれも自己にとっての意味づけは曖昧であった。一方、活動終了後では仕事の社会的な意味やそこで働く将来の自分が想像できるか、自分の興味関心との整合性などに重きがおかれていた。今後縦断研究が必要である。

(その他) ① 専門誌	1. 「新人世代の特徴と早期離職の実態 —新人が離職を決意するとき・留まるとき—」	単著	平成24年1月 (2012)	主任&中堅+こころサポート 1・2月号 (2012) 日総研出版	3-8 頁	
	2. 「新人職員への指導・チームワーク」「今どきの若者とのコミュニケーション」	単著	平成24年2月 (2012)	月刊福祉3月号 (2012) 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 出版部	28-31 頁	
	③その他					
1. 『酒田っ子 すくすく子育て講座』(全6回) 「絆の貯金」 「安心の補給基地」 「ママの目は怒ってる」 「子育ても立派なキャリア」 「小さいころの話」 「きょうだい生まれる」	単著	平成23年10月 (2011) ~ 平成24年3月 (2012)	「私の街さかた」 酒田市広報誌	600 字 / 1 回	乳幼児期の子どもをもつ保護者に向けた、子育て講座。日常的なかかわりの中で心に留めておきたいことを具体例を示しながら平易な言葉で伝えることがねらいである。	

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会			
1. 酒田市立第4中学校学校評議員会	酒田市教育委員会	H23年4月~H24年3月	評議員
2. 酒田っ子すくすく育成会議	酒田市	H23年4月~H24年3月	委員
3. 酒田市スクール・カウンセラー	酒田市教育委員会	H23年4月~H24年3月	スクールカウンセラー
4. 田川地区高校再編検討委員会	山形県教育庁	H23年8月~H24年6月	委員長

②その他			
＜教育機関関係＞			
1. 酒田市立看護専門学校	講義（「人間関係論」）	H23年4月～9月	非常勤講師
2. 新庄市立新庄中学校	ソーシャルスキルトレーニング	H23年6月14日	講師
3. 酒田市立第一中学校	わいわい出前講座 ーキャリア教育ー	H23年5月27日	講師
4. 酒田市立第六中学校	わいわい出前講座 ーキャリア教育ー	H23年7月15日	講師
5. 山形県立山形西高等学校	キャリア講演会	H23年6月16日	講師
6. 酒田市立松陵小学校	キャリア教育教員研修	H23年6月20日	講師
7. 酒田市立松山小学校	酒田市教育実践支援プログラム	①H23年11月11日 ②H23年12月2日 ③H24年2月6日 ④H24年2月23日	助言者
8. 酒田市立宮野浦小学校	子育て学習会	H23年10月13日	講師
9. 山形県高等学校初任者研修	山形県教育センター （キャリア教育）	H23年10月19日	講師
10. 仙台育英高等学校出前講座	キャリア教育	H24年2月28日	講師
＜教育委員会・教育センターなど＞			
1. 酒田市不登校保護者会（年3回）		①H23年6月7日 ②H23年10月4日 ③H24年1月19日	助言者
2. 教育相談員研修		H22年7月1日	講師
＜その他の教育機関・施設＞			
1. 最上地区小中・高校教頭会研修会	キャリア教育	H23年8月2日	講師
2. チェリア塾研修講座	コミュニケーション	H23年9月24日	講師
3. 庄内地域若者サポートステーション（キャリア講座）	キャリア教育	①H23年6月3日 ～7月22日 ②H23年11月2日 ～12月21日 ③H24年2月9日、10日	講師
4. 幼保小指導者研修会		H23年11月29日	講師
5. 酒田市教育研究所特別活動部会		H23年10月7日	講師

研修会			
<看護・福祉関係>			
1. 国立精神・神経センター 武蔵病院	リーダーシップ研修	H23年5月16日	講師
2. 宮城県看護協会看護職能集会	コミュニケーション研修	H23年11月19日	講師
3. 秋田県看護協会	一般教育研修	H23年7月2日	講師
4. 国立病院機構災害医療センター	リーダーシップ研修	H23年7月4日	講師
6. 国立病院機構水戸医療センター	リーダーシップ研修	H23年5月30日	講師
7. 国立国際医療センター職員研修	リーダーシップ研修	H23年10月3日	講師
<学会関係>			
1. 日本キャリア教育学会		H22年11月～現在	理事

平成23年度研究業績調書

職位 氏名	特任教授 高谷時彦				
1 専門分野、研究テーマ	建築・都市デザイン				
	単・共著の別	発行又は発表年	発行所、発表雑誌学会等の名称	担当頁数	概要
2 著書 『幕張ベイタウンの都市デザイン』	共	2012	都市環境研究所	pp104-112	脱近代主義の社会実験である幕張ベイタウンの設計思想や技術の後世に向けての記録集。
3 学術論文 ※受賞作品 鶴岡市立藤沢周平記念館	単	2012	日本建築学会作品選集 2012	p10, 11	作品100選として鶴岡市立藤沢周平記念館を掲載
鶴岡市立藤沢周平記念館	単	2012	日本建築学会東北建築賞作品集	P9	2011 作品賞受賞により掲載
鶴岡まちなかキネマ	単	2012	日本建築学会東北建築作品集	P36, 37	2012 作品賞を受賞した鶴岡市まちなかキネマを掲載
4 研究ノート (名称)					
5 資(史)料 (名称)					
6 翻訳 (名称)					
7 学会発表日本建築学会表彰 鶴岡まちなかキネマ	単	2012	日本建築学会東北支部作品賞		鶴岡まちなかキネマに対して
鶴岡市立藤沢周平記念館	単	2012	日本建築学会作品100選 (2012)		鶴岡市立藤沢周平記念館に対して
8 その他					
① 専門誌建築賞受賞 鶴岡まちなかキネマ	単	2012. 2	第21回 Belca 賞		鶴岡まちなかキネマに対して
② 研究調査報告書					
・羽黒手向まち並み再生調査報告		2012	公益総合研究センター		鶴岡市からの委託で歴史的風致維持向上計画の一環として調査研究
・イチロージ・まち・川再生プロジェクト		2012	再生プロジェクト協議会		山形県新しい公共の仕組みづくりモデル事業助成報告
③ その他(講演など)					
・「川と橋からまちを考える」		2011	講座内川学Ⅲ		講座内川学Ⅲ基調講演
・「多様な住まい、生きるかたち、暮らし」		2012	鶴岡市住生活基本計画協議会		住生活基本計画の策定記念シンポジウムでの講演
・まちづくりデザインスタジオ作品発表講評会		2012	まちづくりデザインスタジオ		社会人を対象にしたまちづくりデザインスタジオの作品発表・講評階を専門家や市民に公開で開催

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の 委員会	鶴岡市景観審議会 鶴岡市歴史的風致維持向上協議会 鶴岡市住生活基本協議会 つるおか住宅選定委員会 鶴岡市文化会館基本計画委員会 酒田市重要文化的景観委員会 酒田市庁舎基本設計選定委員会 府中市景観審議会 鶴岡市創造文化都市食文化委員会 山形県都市計画審議会	H23 年 3 月～H24 年 3 月	委員 委員 委員長 委員長 委員 委員 委員 副委員長 委員 委員
② その他	庄内価値開発研究会	H23 年 3 月～H24 年 3 月	座長

平成23年度研究業績調書

職位 氏 名	伊藤眞知子				
1 専門分野、研究テーマ	社会学・女性学				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 (名称)					
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別) (名称)					
4 研究ノート (名称)「災害とジェンダー」 の課題—東日本大震災後1ヶ月 の時点—	単	2011年	東北公益文科大学総 合研究論集	35-48頁	災害支援・復興のすべての 過程において必要とされ るべき「ジェンダーの視 点」が実際は欠落している 現状について、東日本大震 災後1ヶ月の時点での課題 を整理した。
5 資(史)料 (名称)					
6 翻訳 (名称)					
7 学会発表 (名称)					
8 その他 ① 専門誌 (名称) ② 研究調査報告書 (名称) ③ その他 (名称)					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	山形県男女共同参画審 議会	H22年11月~H24年10 月	会長
	酒田市社会教育委員の 会議	H21年6月~H23年5月	委員
	山形県総合政策審議会	H23年4月30日~H25 年4月29日	委員
	山形県高齢者虐待防止 県民会議	H23年11月~H25年3 月	副会長
	酒田市公益活動推進委 員会	H22年6月~H24年5月	会長
	酒田市介護保険運営協 議会	H21年6月25日~H24 年6月24日	委員
	庄内町男女共同参画社 会推進アドバイザー	H23年4月~H24年3月	アドバイザー
	庄内町情報発信研究所	H23年4月~H24年3月	特別研究員
② その他	山形地方労働審議会	H23年10月~H25年9 月	会長
	特別非営利活動法人あ らた	H20年4月~H 年 月	理事
	社会福祉法人光風会	H22年7月30日~H24	理事

	財)本間美術館	年7月2日 H22年7月～H24年6月	評議員
	生涯学習施設「里仁館」 運営委員会	H22年4月～H24年3月	運営委員
	みやぎ・やまがた女性交流機構	H21年8月～H 年 月	副会長
	庄内地域子育て応援協議会	H21年7月～H 年 月	会長

東北公益文科大学

平成23年度研究業績調書

職位 氏 名	教授 遠山茂樹				
1 専門分野、研究テーマ	イギリス中世史 中世イングランドにおけるフォレスト				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 (名称)					
3 学術論文 ※(査読付論文の区別) 「ウィリアム・ルーファスの死 をめぐって」	単著	2011年 7月20日	東北公益文科大学 総合研究論集、 第20号(査読無し)	1～41頁	ウィリアム・ルーファスの死をめぐっては、大別して陰謀説と事故説の二つがある。本稿ではエマ・メイスンによって提示された第三の説も検討しながら、同王の死は狩猟中の事故によるものであるとの結論を得た。
4 研究ノート (名称)					
5 資(史)料 (名称)					
6 翻訳 (名称)					
7 学会発表 (名称)					
8 その他 ① 専門誌 (名称) ② 研究調査報告書 (名称) ③ その他 「読書案内」	単著	2012年 1月15日	東北公益文科大学 総合研究論集、 第21号(査読無し)	57～66 頁	「読書案内」のかたちで、ウィリアム・ハーディ・マクニール著、佐々木昭夫訳『疫病と世界史』(中公文庫、上下巻、2007年)をとりあげ、その紹介をおこなった。

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	酒田市景観審議会	H23年4月～H24年3月	会長
② その他	鶴岡中央高等学校評議委員会	H23年4月～H24年3月	委員
	鶴岡中央高等学校学校関係者評価委員会	H23年4月～H24年3月	委員